

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおブランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

Q. 十数年経った今、全体学習（みんなで語り合う人権学習）をどう思っているか？

「当時を振り返って思うことは、先生や友達に恵まれてたなということです。全体学習という場を借りて、思春期の子ども達が、自分の思いの丈を友達や大人（特に先生）にぶつけられたことは、本当に大きな財産だったと思います。中学生だった自分は、大人から関心や愛情を受けることは当たり前だと思っていました。しかし自分が大人になって、さらに親になって、どれだけ恵まれていたのか実感します。自分の子育てさえ面倒に思うときがあるのに、すべての先生が毎年、同じように情熱を持って子ども達を指導するのは無理があると思うからです。特に今と昔では教育の現場も違ってきていると思うので、同じような取り組みを私の娘が経験することは、多分無いだろうなとも思います。」

人は、それぞれの中にある本当の思いを直に聞くことで、
その人の思いや考え方、
その人の生活や生きてきた生き様を知ることができます。

それを知ることで初めて、

ああ、この人はこんなこと思ってるんだな、

この人にはこんなことがあったんだな、

と感ずると同時に、

今まで自分はこの人の何を知っていたんだらう、

知っていたようなつもりになっていたけど、まったく知らなかったんだな

ということに気づき、知らなかったことを、「知る」のだと思います。

この過程があって初めて、

「人はみんな違う」「人は違ってみんないい」「個性を認め合おう」

という段階にたどり着けるのではないのでしょうか。

そこが、人権学習のスタートのように思います。



「とはいえ、学校に何も期待しないわけではなく、私の価値観だけでは子どもを間違った方向に導くことも大いにあるので、学校で友達や先生から刺激や影響を受け、強くなってもらいたいなと思います。

私に出来ることといえば、先生や他の保護者と良い関係を作っていくことで、子ども達を良い方向に導いていくことにつながるのかなと思います。

あの時の学習がなければ、私の差別意識は家の枠から出ることもなかったかもしれないし、家族や大人とあんなに熱を持って意見を交わすこともなかったらうし、本当に感謝しています。もし自分の子どもがあんな体験が出来れば、親として嬉しいです。」

反発心を抱いたまま学校を離れた子どもが大人になり、保護者になったら、

その保護者はどんな目で学校を見るでしょう。

学校という場は子どもを中心に、

教員と保護者が力を合わせる必要があります。

でも、そもそもそのスタートにすら立てなければ

本気で語り合う人権学習は、

年月を超え、世代を超えて、学校と保護者の信頼関係を紡いでくれる。

そんな力を持っているように思います。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」



うずしおブランチ代表